

令和二(二〇二〇)年度 入学試験問題 (一次)

国 語

令和二年一月二十五日

十時～十一時

〈 全体的な注意事項 〉

- 一 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開けないでください。
- 二 この冊子の本文は、十九ページです。落丁、乱丁、印刷不鮮明な箇所などがあつた場合には申し出てください。
- 三 試験開始とともに、解答用紙の指定欄に受験番号・氏名を記入し、さらに解答用紙のマーク欄に受験番号をマークしてください。
- 四 解答は解答用紙の所定の解答欄に記入してください。
- 五 やむを得ずトイレに行く場合や質問がある場合には、無言で手をあげ、試験監督者の指示に従ってください。
- 六 解答用紙は、持ち帰ってはいけません。持ち帰った場合は、失格となります。

〈 マーク記入上の注意事項 〉

- 一 解答は各設問ごとに指定された数だけ選び、該当する記号を塗りつぶしてください。
- 二 解答には、HBの鉛筆かシャープペンシルを使用してください。
- 三 訂正は消しゴムできれいに消してください。

第一問 次の文章を読んで、後の問い（問一～問六）に答えよ。

「この箇所については、著作権上の都合により、公開しておりません。」

「この箇所については、著作権上の都合により、公開しておりません。」

「この箇所については、著作権上の都合により、公開しておりません。」

問一 空欄 a) d に入れるのに最も適当なものを、次の①～⑧のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。ただし、

同じものを二度以上用いてはならない。

a 1 2 3 4
b
c
d

- ① でも ② つまり ③ だから ④ さて ⑤ たしかに ⑥ そもそも
⑦ たとえば ⑧ いわば

問二 傍線部 1 とあるが、筆者は「アゲハチョウの羽化」を取りあげることによってどういうことを読者に伝えようとしているのか、その

説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。 5

- ① 移ろいやすい自然の中でかつて若く美しかった生物もいずれ醜く老いゆくほかないが、そうした反転を肯定的に捉え返すような価値転換を図るべきだということ。
② 生物がその時々を示す美醜や老若はもともと一体のものであり、その生物に与えられた時間の中で全体としてのいのちの美しさを実感させてくれるということ。
③ 人間も蝶も有限の時間を生きる存在にすぎないため、それらが折に触れ顕現させる若さや美しさといった輝きも相対的なものとどまるほかないということ。
④ 醜く生まれたものが時の流れの中で若さや美しさを身に備えるようになり、ついには老いて死を迎えてしまうのは生物としての必然のなりゆきだということ。
⑤ 羽化する蝶の醜さと赤ん坊の美しさとは、両者に与えられた生命の時間の中での一つの段階を象徴するものとして何ら価値的に異なるものではないということ。

問三 傍線部2「もともと存在していた事実やルール」とあるが、ここで言う「ルール」に最も近い言葉を、次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。 6

- ① 自然の摂理
- ② 自然の規律
- ③ 生命の原則
- ④ 未知なる自然
- ⑤ 融通無碍な自然

問四 空欄 X ・ Y に入れるのに最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

- ① 芸術を生み出している
- ② 時間を浪費している
- ③ 生活を高めている
- ④ 芸を磨いている
- ⑤ 生活を切り詰めている

Y 8

- ① 文明の衰亡や自然の破壊
- ② 無機的な都市や老いの豊かさ
- ③ 廃墟の美や老人の高貴さ
- ④ 無人の街や過疎の集落
- ⑤ 朽ちた城跡や病んだ患者

問五 傍線部3「それらが私たちの自然を拡大している」とあるが、これはどういうことを言ったものか、その説明として最も適当

なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。

9

- ① 科学の発展が自然的領域としての未知の空間を既知の空間に変えてきたこともあって、人工物自体を人間が同化すべき対象とみなす考え方が徐々に浸透してきたということ。
- ② 人間は自然から離れて都市の中で暮らすようになったため、自らが生きる場としての環境を、いわゆる自然的な領域ではなく都市という人間的領域に求めるようになったということ。
- ③ 人間が向き合うべき自然的な領域が科学の進歩によって徐々に広がってきたことから、今の時代において、人間の意識の上では自然は未知の領域とは言い得なくなってきたということ。
- ④ 人工物と自然との関係を対比的に捉えるのではなく、人工物も人間が自然の中から自然の延長として作り出した、人間が同化することのできるものとみなすことができるということ。
- ⑤ 人工物に自然美を感じるあり方は、自然対人工という二項対立図式から出てくるのではなく、人間は自然と人為との融合を目指すべきだという理念から生み出されたものであるということ。

問六 次のイ～ホについて、本文の内容と合致するものは①に、合致しないものは②に、それぞれマークしなさい。

イ 醜いものも、時間の経過の中で美しいものへと変容する可能性は残っているのだから、その醜さを含めて美のありようを考
えていかねばならない。 10

ロ すべての芸術は純粹無垢な自然の中から生み出されたものなので、芸術家を目指す者は自然に対する憧憬の念を忘れてはな
らない。 11

ハ 想像力を駆使して新しいものを発見したり創造したりするという点では、芸術と科学に違いはないのだから、両者を分けて
考える必要はない。 12

ニ 自然の奥深さの内に働いている原理を掴もうと試みることの大切さを知れば、文系／理系という学問上の枠組みからは自由
になることができるだろう。 13

ホ 文系の学問と理系の学問を区別する必要はないが、自然への関心を涵養するには、理系的な視点は幼い頃から持つておかね
ばならない。 14

第二問

次の文章を読んで、後の問い（問一～問七）に答えよ。なお、設問の都合で、□～□の段落番号が付してある。

「この箇所については、著作権上の都合により、公開しておりません。」

「この箇所については、著作権上の都合により、公開しておりません。」

「この箇所については、著作権上の都合により、公開しておりません。」

「この箇所については、著作権の上の都合により、公開しておりません。」

問一 空欄 a へ f に入れるのに最も適当なものを、次の①～⑧のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。ただし、

同じものを二度以上用いてはならない。

a 15 b 16 c 17 d 18 e 19 f 20

- ① 標準 ② 親和 ③ 創造 ④ 蓋然 ⑤ 傾注 ⑥ 隔絶
⑦ 驚異 ⑧ 長物

問二 空欄 X へ Y に入れるのに最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ

選び、マークしなさい。

X 21

- ① 科学的思考を放棄し信仰の世界へ逃亡としたことの言い訳として断罪すべきであろう
② 宇宙の存在への根拠のない恐れとおののきの現われと切り捨てるわけにはいかない
③ 今ではほほえましい素朴な無知の表明とするに十分なことではないであろうか
④ 宇宙の不可思議さを的確に言い当てたものとして評価することにやぶさかではない
⑤ 自らの心情を率直に語っているという点で今なおわれわれの胸に響く言葉と捉えられる

- ① 素粒子群のさまざまな爆発を契機に宇宙の一角に偶然生成しえた奇跡的な存在
- ② 極微から極大に至る自然のあらゆる次元の構造を解明しつくした偉大な知的存在
- ③ 宇宙の一角に迷い込んだ無力な存在ではあるがその宇宙の全貌を俯瞰ふかんしうる存在
- ④ 宇宙と素粒子との関係が社会と個人との関係に符合するという啓示を受けた存在
- ⑤ 自然という極大と極小の物質が円環状をなす全存在者のリングのなかに具体的に埋め込まれた存在

問三 傍線部1「『泡』の世界」とあるが、これに関する説明として不適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。

23

- ① かつて宇宙は永遠に一定であると考えられていたが、現代の宇宙論のモデルによれば、一五〇億年の歴史を経てとてつもない大きさの規模に変化したと考えられている。
- ② 天の川銀河の大きさや、そのなかでの太陽系の位置が判然とした二十世紀前半以降、天の川銀河を幾重にも包含する宇宙の構造が、想像を絶する規模で解明されている。
- ③ 二十世紀後半になると、無数の銀河が帯状に集まった超銀河団が丸く連なり、銀河が存在しない広大無辺の闇の広がりのなかに点在しながら輝いている構造が明らかにされている。
- ④ われわれの生存する太陽系は天の川銀河に属しており、それを含めた無数の銀河系によって銀河宇宙が形成されているが、それらは一様に分布せずさまざまな群れをなしている。
- ⑤ 銀河が無数に集まることで形成されている超銀河団は、銀河の存在がほとんど確認できない空間を帯状に囲んでいるが、宇宙においてはそうした超銀河団がひしめきあっている。

問四

傍線部2「パスカルのあの複雑な『心の動き』」とあるが、これはどういうことを言ったものか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。

24

- ① 人間に対して永遠の沈黙を保ちながら、無限に広がる宇宙に恐れおののくがゆえに、神に救いを求めざるを得なくなってしまうということ。
- ② 広大な宇宙を前にたじろぎ、信頼していた人間知性の無力に思い悩むがゆえに、科学的思考を超えた存在をも想定せざるを得なかったということ。
- ③ 卓越した知性を備えながらも、広大な宇宙のありようを解明しつくせぬことに絶望し、神にすがったものの安らぎは得られなかったということ。
- ④ 宇宙のなかで人間存在は極微の存在ではあるが、考えることで広大無辺な闇の世界を解明できるといふ人間存在の両義性を詩的に表現したということ。
- ⑤ 無限に広がる漆黒の宇宙への恐怖を抱きつつも、人間知性の可能性を信じるがゆえに、宇宙の空間的構造と歴史的来歴を明らかにしようと努力したということ。

問五 傍線部3「これらの二つの見方」とあるが、これはどういうことを言ったものか。その説明として最も適当なものを、次の①

⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。

25

- ① 宇宙という極大の世界の構造や歴史的来歴の解明は著しく進んだが、他方で、宇宙に比べ極微の存在である人間が抱えている精神的な不安や葛藤に関する考察には進展がないということ。
- ② かつてパスカルが抱いた、人間知性が解明しえない広大な宇宙への畏怖の感情と、宇宙の空間的構造と歴史的来歴の枠組みはほぼ解明されたという、現代科学の成果を賛嘆する気持ち。
- ③ 科学が進展するにつれて自然界への恐れは次第に解消されるはずだという立場と、どれほど科学が発展しても人間の深奥における感情の機微が解明しつくされることはないという立場。
- ④ 無限に広がる宇宙の永遠の沈黙に接し、ひたすら恐怖におののいたパスカルの心情と、その心情の時代錯誤を認めつつもそれとは異なる次元で宇宙の神秘に恐れおののく気持ち。
- ⑤ 現代科学の達成した地平への率直な評価に基づき、形而上的な思考など無意味とする立場と、人間が存在することそれ自体への恐怖や懊悩に基づく思考の意義は決して無視しえないという立場。

問六 傍線部4「いまだ名づけえない謎めいた感情」とあるが、これはどういうことを言ったものか。その説明として最も適当なもの

のを、次の①～⑤のうちから一つ選び、マークしなさい。

26

- ① 宇宙に関する科学的な成果を謙虚に受け止めるにつけ、われわれが、途方もない偶然の重なりで生じた無数の銀河のひとつのなかで、さらなる偶然の重なりによって生存しているという、想像を絶する不可思議な事態に、心がうちふるえるということ。
- ② 宇宙論や素粒子論の発展によって、極微の世界から極大の世界に至るまでの連鎖はかなりな程度解明されたものの、自然界における既知の領域が拡大するにつれその周囲の未知なる領域の存在に気づかされ、人間知性の限界を思い知らされているということ。
- ③ 現代科学の成果によって、人間の存在と宇宙の存在は超越的存在の意志を想定したくなるほど、およそありえないほどの偶然の重なりであることを知るにつけ、こうした事態を三百年以上前に予見したかのようなパスカルの先見の明に驚愕きょうがくしているということ。
- ④ われわれが存在するこの宇宙が、驚くほど多くの偶然の重なりによって誕生したものであり、しかも、その宇宙のなかでわれわれの生命が誕生し進化したことは、奇跡的な偶然によるものであることを考えるにつけ、超越的な存在の意志を信じざるを得ないということ。
- ⑤ 自然が途方もない偶然の積み重なりによって生じたものであり、その自然の中でさらに不思議な偶然の重なりで誕生した人間の来歴を考えるにつけ、われわれ人間が宇宙のありようを凝縮したコスモロジカルな存在にほかならないことを痛感しているということ。

問七 次のイ〜へは、本文の表現や論の展開に関して述べているが、説明として適切なものは①に、不適切なものは②に、それぞれ

マークしなさい。なお、①〜②は段落番号である。

イ ⑦では、宇宙が「泡」の世界と表現されているが、これは、宇宙論の進化に伴い、宇宙の新たなイメージが次々と浮かんでくるものの、いずれは消え去ることを含意している。 27

ロ ⑫では、現在の科学の進展によって得られた宇宙のイメージが「線描画」と表現されているが、これは、宇宙の緻密な像の獲得にはさらに膨大な知的努力が必要であることを踏まえたものである。 28

ハ ⑳では、「暗黒と深淵」は「足下そのものに大きく口を開けている」と表現されているが、これは、人間の生存基盤たる宇宙が広大無辺な闇の世界であることへの恐れを強調したものである。 29

ニ ①〜③では、パスカルの思想をめぐる問題提起がなされ、④〜⑬では、現代科学の成果とその意義が述べられ、これを受けて⑭〜⑲では、パスカルとは異なるものの、宇宙をめぐる不可思議な感情のありようが述べられている。 30

ホ ⑤で指摘された宇宙観測技術の発達に関して、「たとえば」で始まる⑥では、日常生活における具体的な映像が紹介され、「しかも」で始まる⑦では、そうした映像がわれわれのイメージーションや感性に深く浸透していることが述べられている。

31

へ 「とはいえ」で始まる⑬では、⑫で強調された科学的努力の成果に対する疑問が述べられ、同様に「とはいえ」で始まる⑲では、⑱で強調された宗教的感情の否定に対する疑問が述べられているように、本文全体が、正・反・合の弁証法的な論理で展開されている。 32

第三問 以下の問い（問一～問五）に答えよ。

問一 次のA～Dについて、傍線部の漢字と同じ漢字を含むものを、後の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

A スウキな運命を辿る。 **33**

- ① キガイを加える。
- ② キシヨウ価値を持つ。
- ③ キシユウ攻撃を受ける。
- ④ ジョウキを逸する。
- ⑤ 人生の重要なキロに立つ。

B 絶大な権力をシヨウアクする。 **34**

- ① 強いインシヨウを受ける。
- ② シヨクシヨウを分担する。
- ③ 時代コウシヨウを行う。
- ④ 王位をケイシヨウする。
- ⑤ シヨウゾウ写真を撮る。

C カンゼン懲悪の筋書きに興奮する。 **35**

- ① 批判をカンジュする。
- ② 辞職をカンコクする。
- ③ ケツカンを補う。
- ④ ミカンの大作を読む。
- ⑤ キヨウカンの指示に従う。

D 神仏に深くキエする。 **36**

- ① 犠牲者へのイノリを絶やささない。
- ② カエるべき家がない。
- ③ 関心をヨせる。
- ④ オノれに打ち克つ。
- ⑤ スデに手遅れだった。

問二 次のA～Cの空欄に入る語を、後の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

A 半□通 **37**

B 居丈□ **38**

C 好事□ **39**

- ① 生 ② 家 ③ 可 ④ 木 ⑤ 高 ⑥ 夫

問三 次のA～Cのカタカナ語の意味に最も近いものを、後の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

A オルタナティブ **40**

B リテラシー **41**

C ハイブリッド **42**

- ① 代案 ② 教養 ③ 万能 ④ 書字 ⑤ 雑種 ⑥ 超克

問四 次のA～Cの対義語として最も適当なものを、後の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選び、マークしなさい。

A 建前 **43**

B 帰納 **44**

C 序言 **45**

- ① 跋語 ② 本音 ③ 骨子 ④ 演繹 ⑤ 還元 ⑥ 主題

問五 次のA・Bの言葉の用法として不適当なものを、後の①～④のうちからそれぞれ一つ選び、マークしなさい。

A 阻害

46

- ① 養分が不足すると植物の成長が阻害されるので肥料には注意が必要だ。
- ② 糖尿病患者には糖の分解酵素を阻害する薬が処方されることもある。
- ③ 現代人は自分らしさを見失うという自己の阻害状況に置かれがちだ。
- ④ 産業の発展を阻害する要因を具体的に検証していく必要がある。

B ジレンマ

47

- ① 終末期医療では積極的治療を行うべきか否かに悩む倫理的ジレンマがある。
- ② 生きる上で直面することになった解決し難い問題にジレンマを感じてしまう。
- ③ 個人の合理的な選択が多数者の選択と一致しないときにジレンマが生じてしまう。
- ④ 既存の商品を改善することが新たな商品開発にはつながらないというジレンマに陥る。